

氏名	高 杉 敬 久
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1 1 9 7 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和 56年 6 月 30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	胸腺の走査電顕的研究 第 1 編：血管周囲腔を中心として 第 2 編：胸腺内微細血管構築について
論 文 審 査 委 員	教授 長島秀夫 教授 大藤 眞 教授 村上宅郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Blood Thymus barrier として概念づけられている胸腺の免疫に対する非反応性は、血管周囲腔によるものとされている。

第 1 編ではラット胸腺を灌流固定し、タンニンオスミウスで導電染色し、走査電顕にて血管周囲腔に注目して観察した。血管周囲腔は、後毛細管静脈に存在し、血管壁と実質とを境する細網細胞の連続により形成される膜で形成される空間で、所々で細網細胞性の索状物で連っている。この膜には孔が存在し、又血管周囲腔を有する血管にも孔が在り、それぞれ実質より血管周囲腔へ、血管周囲腔より血管内へと胸腺細胞の遊出の所見を得た。又併せて皮質に主として分布する表面平滑な細胞群と、髄質に主として分布する多数の microvilli を有する細胞群と 2 種類の細胞群を認め、又 macrophage と考えられる大型かつ長く数も多い microvilli を有する細胞を髄質小血管周辺に散在性に認めた。

第 2 編では鋳型走査電顕法にて胸腺内微細血管を再現し、特に機能的場と考えられる皮質髄質境界部に注目して観察した。胸腺小葉に分布する動静脈はまず第一に皮質髄質境界部に入り、これ以降は動静脈は伴行せずそれぞれ独立して皮質、髄質に入る。又皮質と髄質の毛細血管網は前者は密で細く、後者は疎で太い。又血管支配の境界は明らかでなく、小葉単位は判然としない。血管周囲腔を有する小静脈は、皮質髄質境界部に集中的に存在する。

論文審査の結果の要旨

本研究では立体観察に適した走査電顕で胸腺の血管周囲腔や胸腺細胞遊出所見，免疫反応に関係する胸腺の subpopulation, macrophage 等について詳細な観察を行った。さらに，鋳型走査電顕法で胸腺内微細血管構築についても新しい知見をえた。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。